

小学校・低学年

# 家庭学習の手引き



©横芝光町2013

平成30年4月

横芝光町教育委員会

【おうちの方へ】

## 1 家庭学習の手引きについて

小・中学校での学習は、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育てます。学校では、そのために必要となる基礎学力を身につけ、高めるための努力をしていますが、家庭との協力によって、その成果を何倍にも高めることができます。

「学ぶ力」とは、自分で意欲や疑問をもちながら、知識を生かし、見通しをもって考える力のことを言います。家庭学習を毎日続けることで、しっかりとした考え方や集中力だけでなく、学習習慣が身につく、困難なことに出会っても逃げないで積極的にチャレンジしようとする力が備わります。家庭学習の定着は、子どもの主体性や自律性を伸ばし、夢をふくらませ、目標をもって人生を心豊かに生きる力となって、将来への大きな財産となるのです。

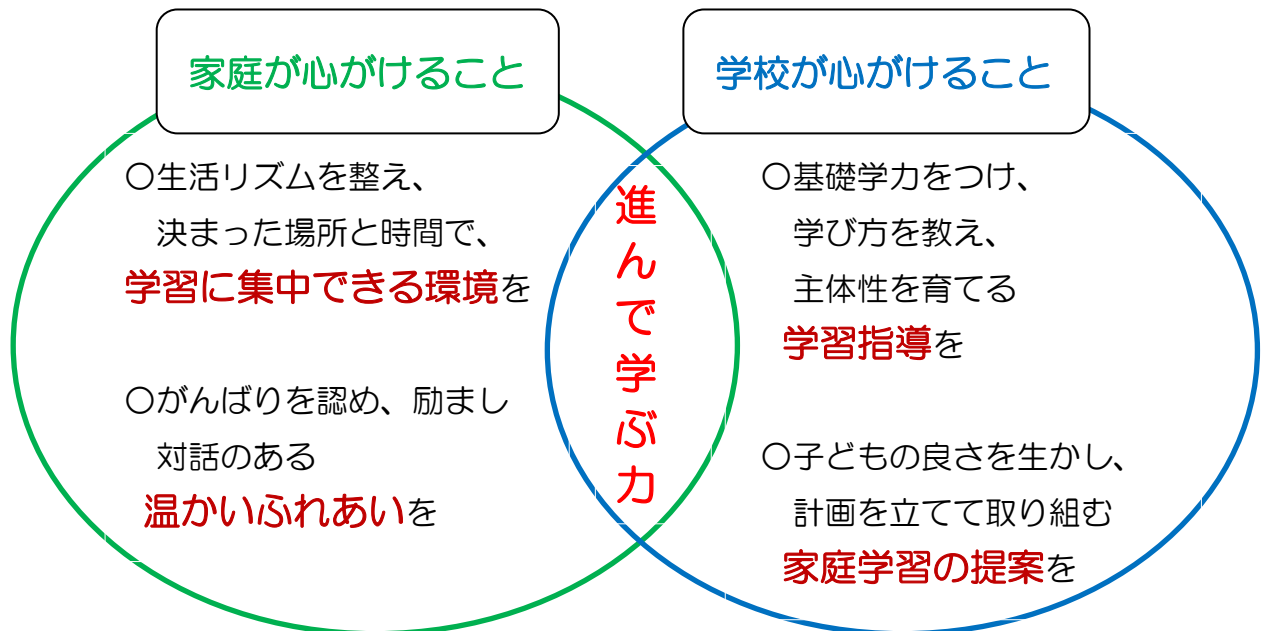
家庭学習充実のために、この冊子を十分に活用して欲しいと思います。



## 2 家庭を「学ぶ力」を育む環境に

「学ぶ力」は、子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中で、毎日学習を積み重ねることで育ちます。また、子どもは、家庭に認められ励まされることで、「見守られている」という安心感の中に、「頑張ったよかった」という達成感を抱き、自分らしさや努力をすることに自信をもつようになります。

学校と家庭とが協力し合って、子どもの「学ぶ力」を育てていきましょう。



○家庭（保護者）と学校（教師）とが、家庭学習の習慣化を目指して協力し合うことが、子どもの心を耕し、「学ぶ力」を育てます。

○子どもの家庭学習が充実するよう、学びの環境を整え、家族の温かいふれあいを増やしていきましょう。

### 3 「家庭学習」を習慣付けるための3つのポイント



#### ポイント1 時間を大切にすることを育てましょう

○時間を大切にすることで、計画性が養われます。

子どもには、「やりたいこと」、「やるべきこと」、「やらなければならないこと」がたくさんあって、子どもは子どもなりに、毎日時間に追われているのです。

しかし、自分の時間をどう使ったらよいのかわからず、「やりたいこと」が優先され、「やるべきこと」が後回しになり、つい携帯電話やメール、ゲーム等に時間を費やしてしまうなど、時間を無駄に過ごしてしまいがちです。

時間の使い方を本人まかせにしないで、自主性を尊重しながらも、家庭のスケジュールを決めて学習時間を確保するなど、親がある程度管理をしてあげることが必要です。

#### ポイント2 認めて・褒めて・励まして・やる気を育てましょう

○子どもとのコミュニケーションの中に、やる気を引き出すチャンスがたくさんあります。

学習に対する意欲は、「できた!」「わかった!」という子どもの達成感と、「すごいね」「よくできたね」という褒め言葉や認めてあげる言葉によって高まります。

叱られてやる気になることは少ないと思います。子どもの気持ちに寄り添って、「認めて・褒めて・励まして」あげることが、やる気を育てることにつながります。

#### ポイント3 読書や体験を通して、子どもの学びを深めましょう

○「読書好き」は「学び上手」につながります。

学力を高める上で、即効性がないかのように見える「読書」。しかし、「読書」によって「考える習慣」を身に付けておかないと、土台のないところに家を建てるのと同じで、学力は向上しません。

○体験は心をたがやし、豊かな感性を育みます。

体験は人を磨きます。体験することで得られる感動や喜びは、子どもたちを次の興味へと導いていきます。感性が鋭いこの時期だからこそ「見て、ふれて、確かめる」体験を積むことは、とても大切なことです。

# 小学校 1・2年生

## 基本的な学習習慣を身に付ける

### 1・2年生では

「早寝早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」など、まず基本的な生活習慣を身に付けることが、学習習慣の定着には欠かせません。

まだ一人で学習計画を立てることは難しく、親の支援が必要です。家族の助けを借りながら、できたことをほめることによって自信を付けさせ、興味・関心を引き出し、自ら学ぶ意欲を伸ばしましょう。

学習時間のめやす

10~20分

10分×学年

### 学習の特徴

- 45分を1時間とした授業の中で、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。その中には、繰り返し練習をすることで力がつく学習内容がたくさんあります。
- 「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「明日の授業の準備をする」「身の回りの整理整頓をする」ことが、学習の基本になります。
- 生活と結びついた学習が多く、身近な物を使ったり、実際に体験したりする学習が中心になります。

### 家庭での援助

- 学習を始める前に、テレビなどを消しましょう。勉強をする場の整理整頓をしましょう。
- 学校からのお便りや明日の授業など、子どもと一緒に確かめることが大切です。
- 何時までに学習を終えるのか、目標を立てさせましょう。
- 宿題や家庭学習をするときは近くにいてあげましょう。
- 鉛筆を正しく持たせましょう。「ひじをつかない」、「背筋を伸ばす」など、正しい姿勢で取り組ませましょう。
- 一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら、子どもの生活経験を増やしましょう。

## 家庭学習の内容

### 国語

(音読)

- 楽しみながら、聞く人に聞こえる声の大きさを読めるようにしましょう。
- 句読点（「、」や「。」）に気を付けて、文の意味がわかるように読む練習をしましょう。
- 毎日続けて練習しましょう。

(ひらがな・カタカナ・漢字)

- 書き順や文字の形、「とめ」「はね」「はらい」に気を付けて書きましょう。
- 正しい姿勢で、丁寧にゆっくりと書きましょう。

(読書)

- 子どもの興味や関心、学年に応じた本をまわりに用意しましょう。
- 読み聞かせをしてあげることも、大切なことです。
- 家族が読書を楽しむ姿を見せたり、読書の時間を共有したりするのもよいことです。



### 算数

- 計算力を向上させるためには、まずはゆっくり正確に計算できるように、正しい計算の手順を確実に身に付けましょう。
- 間違った問題は必ず見直し、もう一度やり直す習慣をつけましょう。
- 正しく計算できるようになったら、徐々に早くできるように練習しましょう。
- 文章題は声に出して問題を読み、絵や図に描いて考えさせましょう。
- かけ算九九が正しく覚えられるように、何度も唱えさせながら練習しましょう。
- 定規で直線を引く練習をしましょう。

### その他

- 楽しかったことやうれしかったことを、自分の言葉で絵日記や日記に書くことも進めてください。
- 家庭での援助として、音読を聞いてやり、感想を言ってあげることも大切なことです。
- 休日は親子で、動・植物園で本物の動植物に触れたり、家で生き物を育てたりして、命の大切さを学ぶ学習を实践させましょう。
- 決めた時間に、集中して学習するようにしましょう。学習の効果を上げるために、「ながら学習」や、眠くなってからの学習は避けましょう。

# こんなべんきょうをしよう

(1年生)

1 はじめに しゅくだいを します。  
おわったら おうちの ひとに みて もらいましょう。

2 つづいて つぎのような べんきょうを しましょう。



べんきょうじかんの  
めやす

**10分**

【こくご】(れい)

おすすめ	べんきょうの しかた
1 きょうかしよを よむ	○いま きょうかしよで べんきょう しているところを 3かい よみます。
3 ひらがな・カタカナ・ かんじを おぼえる。	【きょうかしよ や ドリルを つかって】 ①ならった じを かきじゅんに きをつけて かきます。 ②かんじの ところを 3回 よみます。 ③ひらがなの ところを みて ノートに かんじに なおして かきます。 ④もういちど かんじの ところを みて まるつけを します。 ⑤まちがえた じは ノートに 3かい かきます。

☆1と2が おわったら つぎにチャレンジ!

○にっきを かく。	○いつ・どこで・だれと・なにをしたか を かきます。 ○ならった ことばや カタカナ・かんじを つかって かきます。 ○おもった ことも かきます。
○どくしよを する。	○いろんな ほんを よみます。としょかんで かりても いいです ね。

【さんすう】(れい)

1 きょうかしよの もんだい を とく。	①がっこうで べんきょう した ところを もういちど ノート に やってみます。 ②さんすうの ノートを みて まるつけを します。 ③まちがえた ときは もういちど やりなおします。
2 けいさんの れんしゅう を する。	【きょうかしよ や ドリルを つかって】 ①ばんごうを かき もんだいを ノートに うつして かきます。 ②しきや こたえを かきます。 ③こたえを みて まるつけを します。 ④まちがえて いた ところは おうちの ひとに きいて かき なおします。



# こんなべんきょうをしよう

(2年生)

1 はじめに しゅくだいを します。  
おわったら おうちの 人に みて もらいましょう。

2 つづいて つぎのような べんきょうを しましょう。

【こくご】(れい)



べんきょうじかんの  
めやす

**20分**

おすすめ	べんきょうの しかた
1 きょうかしょを よむ。	○きょうかしょの いま べんきょう しているところを 3かい よみます。
2 かん字を おぼえる	【きょうかしょや ドリルを つかって】 ①かん字の ところを 3かい よみます。 ②ひらがなの ところを 見て ノートに かん字に なおして かきます。 ③もう一ど かん字の ところを 見て まるつけをします。 ④まちがえていた 字は ノートに 3かい かきます。 ○ならった かん字を つかって みじかい 文をつくり ノートに かきます。

☆1～2がわったらつぎにチャレンジ!

にっきを かく。	○いつ・どこで・だれと・なにをしたか を かきます。 ○ならった ことばや カタカナ・かん字を つかって かきます。 ○おもった ことも かきます。 ○かいわを「 」を つかって かきます。
どくしょを する。	○いろんな 本を よみます。としょかんで かりても いいですね。

【さんすう】(れい)

1 きょうかしょの もんだい を とく。	①学校で べんきょうを した ところを もう一ど ノートに やってみます。 ②さんすうの ノート を 見て まるつけを します。 ③まちがえた ときは もう一ど やりなおします。
2 けいさんの れんしゅう を する。	【きょうかしょや ドリルを つかって】 ①ばんごうを かき もんだいを ノートに うつして かきます。 ②しきや こたえを かきます。 ③こたえを 見て まるつけを します。 ④まちがえて いた ところは おうちの 人に きいて かき なおします。



よこしばひかりちょうりつ

しょうがっこう

ねん くみ ばん なまえ